

---

# Oedo-Renga

吉原 兎沙木

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

O e d o - R e n g a

### 【Nコード】

N 6 9 2 5 C

### 【作者名】

吉原 兎沙木

### 【あらすじ】

染物屋の娘の春小<sup>はるこ</sup>は17歳の誕生日に、2つ年下の道場主の柚木<sup>ゆき</sup>元へ嫁ぐ事になった。それから始まる恋・・・って一体?!

## ずっと昔の恋物語。（前書き）

大江戸恋歌。夢のごとく、街は生きていて。

## ずっと昔の恋物語。

頃は江戸。舞台は將軍のお膝元、江戸の城下町。そして、とある染物屋の娘、春小のお話でございます。春小の家は、50年に渡る老舗の染物屋。『染め矢』の娘で、今日で17歳を迎えた日でございました。それは、染め矢の新しいお得意様で、連歌道場の主である志摩豊しまとよ 柚木との縁談が決まった日でございました。

ちょっと前、染め矢のお得意であつた呉服屋『越前』がほんのちよつとした貸し金で染め矢ともめてしまい、契約を打ち切つてしまつたのでございます。おかげで春小は塾にも行く金もなく毎日働いてゐるばかりでございました。そうして、しばらく経つたある日、春小の腕に惚れて深みのある黒で銀の柚えだの紋付を頼んだのが、連歌道場の前の主、志摩豊しまとよ 利之としゆきでございました。道場同士の挨拶や集會にこれに来て参加したいと言つてきたのであります。

もちろん、久々のお客に春小と春小の父、信介のぶすけは、よろこんで引き受けたのですが、

その紋付が出来上がったその日、利之 殿は、「うちの柚木の嫁にやあ、春さんがええな。」

と、言い残して酔っぱらつた勢いにその夜、橋から落つちて死んだそう。

それから、その良く解らない遺言の通りに、決りがいい日だからと、春小は嫁ぐ事になったのであります。

## 貳・祝言（前書き）

春小の結婚式が行われる事に。お互いよそよそ・・・；

## 貳・祝言

祝言の日。

その日の朝、春小は早めに目を覚ました。簡単に身支度をする、土間で米を炊き始めました。お手伝いのお市さんが、「今日は、まあ、お休みなされ。」と言って、さっさと春小を追い出してしまった。まだ、如月の雪がちらつく今日。春小は米をといだせいで、手がひどく凍えてしまいました。ですから、朝風呂、とまでは行きませんが、お湯をわかしててや顔を洗い、髪をときました。まだ日も昇ってきたかどうか解らないくらい辺はしんとして、真っ暗でございました。

そんな早朝にも関わらず、春小の父は、結い物屋のマチコを連れてきて、髪留めやら化粧やら色々持ってこさせたのでございました。

春小の母、お百合は「あんた、まだ早いって。」と叱って結局、マチコと一緒に一家全員で朝食をとったのでございました。

江戸時代は、身分やら、なにやらとうるさいのですが・・・その日は何も気にせずみんな一緒に食事をしました。

それから、日が照り、雪もお天道様の優しい光にじれったそうに溶けて、すっかり空はきんと冷たくはった青空に、金糸の雲をかけていたのでございました。

祝言は、昼過ぎに始まりました。

春小は、まだ2・3回しかあった事の旦那を前にしひどく緊張してしまいました。身にまとった着物は、父が魂を込めて染め上げた深い紅色に、銀の桜が散りばめられ、綿が肩の後ろや背中に積めてあり、とても温かい着物でございました。親戚は酒に酔い、めでたいめでたいと喜んだのですが・・・。若い二人は、なかなか馴染めずに居たのでした。

そうして祝言もお開きになり、やっと落ち着けると思ったのですが、もう、春小は家には帰れないのです。無論、嫁いだわけですから……。

結婚初夜。初々しい男女がいきなり一緒の部屋になる事になるなんて、春小は思っても見ませんでした。今日は祝言で、お互いくたぐたでございました。

連歌道場について、少しお話しいたしましょう。

柚木は、産まれた時に母親を亡くしてしまい、父親とむさ苦しい道場の弟子達にかこまれて男らしく育ったのでありました。しかし、産んだ拍子にあばら骨を折って事切れてしまった母親に似て、何かしら身長が低く、か細い少年でありました。それが悩みでもありませんでしたが、やはり、母親に似て、学問が達者で、真面目。しかも父親に似た斬新な武術のスタイルと言ったら、なみなみならぬ、天才でありました。祖母と父と一番弟子の菊次郎（柚木より年上ですが……）と暮らしていたのですが……。それは、『壺』でお話した通りに至り、跡継ぎとして、大急ぎで縁談が決まり、祝言に至り、ほとんど会話を交わさないまま、染物屋の娘と結婚させられたのであります。

この一ヶ月は柚木にとって、とても忙しい月でありました。

静かに時が流れ、小雨が降っております。春とはいえ、まだまだ寒さが残る初春でございます。

……

春小と柚木はお互い向き合いました。そして姿勢を正し、先に春小が声をかけました。

「今日は、お疲れ様です・・・。」

・・・。

「ああ。」

・・・。

・・・。

春小は、すつと床に手を着き、深々と頭を下げました。

「ヨロシクオネガイシマス・・・。」

「こちらこそ・・・。」

柚木は、慌てて頭を下げました。脚がしびれてとても寒い夜でした。二人も緊張のせいか、少し寒いまま床につきました。

柚木・15歳。春小・17歳を迎えたばかりの結婚初夜でございました。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6925c/>

---

Oedo-Renga

2010年11月8日08時44分発行